

【今日の説教から】

時には厳しく思える言葉も、謙遜に受け入れられるのなら、それは良薬として心身に働くということがあります。

人の心は、人のあくなき欲望のゆえに、汚れて神様の御心を現すところではなくなっていました。その心の中から、悪しき言葉が口をついて出でて、人を傷つけ、戦いや争いを引き起こします。

「不貞のやからよ。世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないか。おおよそ世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである」この直言を心に留めたいのです。これは呪いの言葉でも訣別の言葉でもありません。

「神は、わたしたちの内に住ませた霊を、ねたむほどに愛しておられる」

聖霊を住ませているとは、救われたキリスト者に対する言葉です。救われてもなお、そこまでも落ちぶれ、神様から遠く隔たった者のため、そんな死臭漂う廃墟のような心にも、なお神様はご自身の聖霊を遣わしておられる。そして心配して、妬むようにして心焦がれる気持ちで遣わされ懸命に働く聖霊を見ておられる。そこまでも大切な御霊を惜しげもなく私たちの心の内に住ませている下さる。

「そういうわけだから、神に従いなさい。そして悪魔に立ちむかいなさい。神に近づきなさい。そうすれば神はあなたがたに近づいて下さる。」

神様はずっと私たちの近くにおられました。ここに神様の愛があります。哀しみ憂いも束の間のこと。私たちは神様をこそ待ち望みたいのです。

皆様おはようございます。10月も後残すところ10日、10日後には年賀はがきが発売されるのでしょうか。寒さも増し加わってまいりました。お元気にお過ごしでいらっしゃいましたか。

さてヤコブ書も残すところ2章となりました。

3章では舌を制御するという事で、聖書から私たちは深く心を探られた訳です。私たちの心の中には、知恵もなく大言壮語し、小さな火が森全体を焼き尽くすように、悲惨をもたらす、不義の世界があり、私たちは、全身を汚し、生存の車輪を燃やす、制しにくい悪、死の毒に満ちた心根を持っていて、苦々しいねたみや党派心を抱き、地につくもの、肉に属するもの、悪魔的なものが私たちの心の中にごめいていることを聖書から示されました。

そして4章。今日の個所でも私たちの心の底深くをえぐる、神様の外科手術の御業がありません。

1 あなたがたの中の戦いや争いは、いったい、どこから起るのか。それはほかではない。あ

あなたがたの肢体の中で相戦う欲情からではないか。

「あなた方の中の戦いや争い」。つば競り合いや衝突。論争と対立。口論や対立。反目。戦い。戦争。それは何が原因なのか。私たちが何千年もの間克服しえない人と人、国と国との戦いや争いの根源について聖書は語ります。

「それはほかではない。あなたがたの肢体の中で相戦う欲情からではないか」それは私たち一人一人の身体の各部分から起こり来る喜びや快樂、欲望が原因ではないかと語ります。

人の身体からにじみ出る欲望。これは時に生きていくために必要な人間の本能です。食べること、飲むこと、温まること、涼むこと、休むこと、働くこと。この肉体を守るための諸々の欲求によって私たちの命が養われ、私たちは生きています。しかしここで言う欲望とは、体の中で相戦う欲望となっています。

5節に「神は、わたしたちの内に住ませた霊を、ねたむほどに愛しておられる」とありますように、今日語られています「あなた方」との語りかけは、私たちキリスト者に宛てられたものであることが分かります。

「体の中で相戦う欲情」とは、救われてある私たちの中に戦いを仕掛けてくる古い欲望、救われて新しくされてある私たちに再び仕掛けてくる悪魔的な誘いを意味します。

ローマ 12:2 あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。

1 ペテロ 4:1 このように、キリストは肉において苦しまれたのであるから、あなたがたも同じ覚悟で心の武装をなさい。肉において苦しんだ人は、それによって罪からのがれたのである。

4:2 それは、肉における残りの生涯を、もはや人間の欲情によらず、神の御旨によって過ごすためである。

4:3 過ぎ去った時代には、あなたがたは、異邦人の好みにまかせて、好色、欲情、酔酒、宴樂、暴飲、気ままな偶像礼拝などにふけてきたが、もうそれで十分であろう。

4:4 今はあなたがたが、そうした度を過ぎた乱行に加わらないので、彼らは驚きあやしみ、かつ、ののしっている。

2 あなたがたは、むさぼるが得られない。そこで人殺しをする。熱望するが手に入れることができない。そこで争い戦う。あなたがたは、求めないから得られないのだ。

神様は、御子イエス・キリストの尊い血潮の贖いを通して、私たちをその深みから、際限のない人の欲望から救い出して、神様の平安の中に移し入れてくださいました。

1 ヨハネ 2:15 世と世にあるものごとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。

2:16 すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。

2:17 世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。

ヨハネ 14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。

14:27 わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。

コロサイ 1:13 神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。

1:14 わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。

ヨハネ 3:18 彼を信じる者は、さばかれない。信じない者は、すでにさばかれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである。

3:19 そのさばきというのは、光がこの世にきたのに、人々はそのおこないが悪いために、光よりもやみの方を愛したことである。

3:20 悪を行っている者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出されるのを恐れて、光にこようとはしない。

3:21 しかし、真理を行っている者は光に来る。その人のおこないの、神にあってなされたということが、明らかにされるためである。

光とは、私たちを救う救いのチャンスです。まぶしいからそれを避けて陰に逃れるような生き方ではなくて、私たちは隠し事を捨てて、光の中に進み出る時に救いがあります。私たちは、自分で大切に思っている魅力的なもの、自分を喜ばせる輝かしい宝を、美しく見えるものを一生懸命自分の所に手繰り寄せ、しがみついています。そのむさぼりが私たちを破滅に追いやります。私たちは私たちに戦いを仕掛けてきて、私たちの心を締めようとして近づ

いてくる欲望とむさぼりを支配しなければなりません。

2 あなたがたは、むさぼるが得られない。そこで人殺しをする。熱望するが手に入れることができない。そこで争い戦う。あなたがたは、求めないから得られないのだ。

そのむさぼりは、私たちが罪の行いへと仕向けます。むさぼりは、際限ない欲望へと私たちを駆り立て、人を殺して奪ってでも手に入れたいという心へと私たちを駆り立てます。人を殺すとは、文字通り人のいのちを奪うということだけではなく、人を自分よりも低くし、顔に泥を塗り、屈服させ、言い負かし、侮辱し、虐げ、軽蔑することをも含みます。自分が上に立つ者であると思わせつけ、人を屈服させ、自分が優位に立とうとする。そういう熱望が私たちのうちにはあります。弟子たちの間にこの熱情があり、主から「あなた方にはふさわしくない」とたしなめられたように。

マタイ 20:20 そのとき、ゼベダイの子らの母が、その子らと一緒にイエスのもとにきてひざまずき、何事かをお願いした。

20:21 そこでイエスは彼女に言われた、「何をしてほしいのか」。彼女は言った、「わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりあなたの右に、ひとは左にすわれるように、お言葉をください」。

20:22 イエスは答えて言われた、「あなたがたは、自分が何を求めているのか、わかっているか。わたしの飲もうとしている杯を飲むことができるか」。彼らは「できます」と答えた。

20:23 イエスは彼らに言われた、「確かに、あなたがたはわたしの杯を飲むことになる。しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、わたしの父によって備えられている人々だけに許されることである」。

20:24 十人の者はこれを聞いて、このふたりの兄弟たちのことで憤慨した。

20:25 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおりに、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。

20:26 あなたがたの間ではそうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、

20:27 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。

20:28 それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。

ピリピ 2:1 そこで、あなたがたに、キリストによる勧め、愛の励まし、御霊の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、

2:2 どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。

2:3 何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。

2:4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2:5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

2:10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、

2:11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

主イエス様の心を持つということが私たちのための光の救いです。私たちはすぐにすぐに暗闇の中に誘い込まれます。そして私たちの弱さによって私たちは時にそれに抵抗できない時があります。しかし私たちはそれを御さなければなりません。

2 あなたがたは、むさぼるが得られない。そこで人殺しをする。熱望するが手に入れることができない。そこで争い戦う。あなたがたは、求めないから得られないのだ。

3 求めても与えられないのは、快樂のために使おうとして、悪い求め方をするからだ。

私たちは、神様に恥ずかしくて求められないような、自分の事しか考えない、人の事を無視した欲望に囚われがちです。欲しいものがあれば堂々と神様に頼めばいいのに、神様の前に出すことの出来ないような誤った動機にある願いを私たちの心の内に抱くのです。それは御心に反し、それは願ってはならない、神様を悲しめ、神様の家族の輪を乱すような自分本位の願いを抱きながら、それをかなぐり捨てることも出来ずに、間違った動機のまま突き進み、悪い求めのままに突き進んでいます。それほどに、私たちの心の内に戦いを仕掛けてくる快樂とは力強いものです。

4 不貞のやからよ。世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないか。おおよそ世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである。

不逞のやから。神に背く二心のもの。世を友とするのは神への敵対だと、強い調子でここで

非難されています。そうです、私たちはこの二心の中で心が割かれ、苦しむのです。私たちはこの言葉に、神様の怒りの顔を見るのでしょうか。

5 それとも、「神は、わたしたちの内に住ませた霊を、ねたむほどに愛しておられる」と聖書に書いてあるのは、むなしい言葉だと思うのか。

神様のお方は、悲しみのお顔です。イエス様に身代わりの死を遂げさせ、私たちの贖いとされてもなお、人間はその高価な恵みに答えず、救われてもなお変わる事なしに相も変わらず神のことを思わず、人の事ばかり、自分の事ばかりを考えている始末です。それでもなお、神様はそのような甲斐のない者たち、恩知らずの無法者たちの間にご自身の聖き霊を住まわせていらっしゃるのです。

ローマ 8:26 御霊もまた同じように、弱いわたしを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。

8:27 そして、人の心を探り知るかたは、御霊の思うところがなんであるかを知っておられる。なぜなら、御霊は、聖徒のために、神の御旨にかなうとりなしをして下さるからである。

それでもなお聖霊は、私たち二股の愛、二心の神への愛、煮え切らない者たちのために、芬々たる悪臭をもって神の喜ばれないものを心に抱いて聖霊を悲しませ、うめくように苦しみ祈る聖霊を、父なる神様はねたむほどに愛して、けなげに祈り執り成すご自身の霊を私たちのうちに心焦がれて見つめていらっしゃるのです。この期に及んでさえ、ここまでして私たちのために尽くして下さる神様のご愛。それは私たち一人一人への神様の妬むほどの愛をもあらわしています。こっちにフラフラ、あっちにフラフラの悟りのないキリスト者を、神様は私たちがキリストの花嫁であるがゆえに、欲情に誘われ行くあらゆる悪しきもとへと誘われ行く私たちに対して、妬む心で、愛にあふれるところで私たちの足取りを見ておられるのです。

6 しかし神は、いや増しに恵みを賜う。であるから、「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う」とある。

いや神様は、私たちに恵みを与えようとして待っておられます。その神様の恵みに上回る恵みはこの世界広し、どこを探しても見つかるものではありません。

7 そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。

私たちは、神様のお側近くにいることが幸せなのです。この方のもとにいることが人の本来の場所であり、このお方に心を満たしていただく事こそが私たちの本来の姿なのです。そこには愛があり、義があり、正しさがあり、命と祝福があります。悪魔は一縷とも私たちに近づき得るものではありません。

8 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう。罪人どもよ、手をきよめよ。二心の者どもよ、心を清くせよ。

9 苦しめ、悲しめ、泣け。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えよ。

私たちが出来る最大の事は、心の中に後生大事に抱えているものを光の中にさらけ出して、神様に委ね、金を川から取り出す人がするように、神様の前にふるいにかけて、神様の前に、すべてを委ねて神様の前に良いものだけを授けて頂く営みなのです。

かつては自分の欲望に手を汚し、方法も倫理も、神の道も無視して、なし崩し的に誰からの忠告も聞かずに、坂道を転げ落ちるような生き方がありました。誰の言うことも聞かず、そして神様の言うことにも耳を閉ざしていました。神様は厳しく、恐ろしい方だと決めつけていました。自分は弱いから、完璧に生きる掟など、最初から守れるはずはないと決めつけていました。しかし、神様のお悲しみと熱意、妬むほどの愛、ご自身を滅ぼすほどの愛、御子イエスキリストを賜うほどの愛の炎を見せつけられてからは、私たちの生き方が変わりました。私たちのかつての神様を無視した笑いや喜びを考えると、神様のお悲しみを考えると、神様の苦しみ、悲しみ、涙を思うと、憂いを思うと、私たちは神様のそのような、私たちを思う憐れみの心のゆえに心が痛み、神様の前に苦しみ、悲しみ、涙が出て来るのです。そこまでして私たちの事を考えて下さったのに、私たちは何をもって主に報いてきたのだろうか。憂いの心で胸が閉ざされるのです。

10 主のみまえにへりくだれ。そうすれば、主は、あなたがたを高くして下さるであろう。

これが神様からの祝福です。苦しめ、悲しめ、泣け。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変え、そして真実なる方のもとに立ち帰れとの神様の熱き語り掛けに答える者への神様からの祝福です。

この真実なるお方へ近づき得るためにご自身の身をささげて下さり、私たちの「道、真理、いのち」となって下さった救い主に感謝をおささげいたしましょう。

ローマ 6:12 だから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従わせることをせず、

6:13 また、あなたがたの肢体を不義の武器として罪にささげてはならない。むしろ、死人の中から生かされた者として、自分自身を神にささげ、自分の肢体を義の武器として神にささげるがよい。

6:14 なぜなら、あなたがたは律法の下にあるのではなく、恵みの下にあるので、罪に支配されることはないからである。

6:15 それでは、どうなのか。律法の下にではなく、恵みの下にあるからといって、わたしたちは罪を犯すべきであろうか。断じてそうではない。

6:16 あなたがたは知らないのか。あなたがた自身が、だれかの僕になって服従するなら、あなたがたは自分の服従するその者の僕であって、死に至る罪の僕ともなり、あるいは、義にいたる従順の僕ともなるのである。

6:17 しかし、神は感謝すべきかな。あなたがたは罪の僕であったが、伝えられた教の基準に心から服従して、

6:18 罪から解放され、義の僕となった。

ローマ 8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。神様の妬むほどに深く求め愛する気持ちは私たちのうちに遣わされた聖霊に向けられたもののみならず、私たち自身にも向けられた愛のお心であることを知り、御名をあげ感謝いたします。厳しい言葉も時に苦しい出来事を味わうのも神様の私たちへのご愛のお思いのゆえであることを信じます。苦しみも嘆きも涙もひと時、悲しみも憂いも、笑いと喜びに至るまでのつかの間と信じ、ただただ恵み豊かな神様に従い、神様にこそ近づき、正しく進むことが出来ますようにとお助け下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン